

総務大臣賞

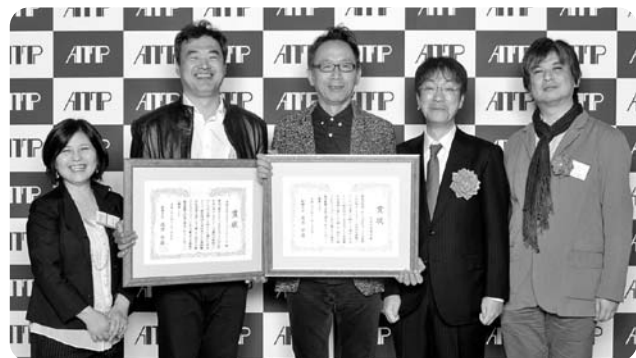
NHKスペシャル

『和食』 千年の味のミステリー

プロダクション・エイシア、ボワン・ド・ジュール／
NHK総合、アルテ・フランス

プロデューサー 伊藤 純(NHKエンタープライズ)
ディレクター 柴田 昌平(プロダクション・エイシア)
制作統括 牧野 望(NHK)
大兼久由美(プロダクション・エイシア)

この度は栄えある賞に選んでいただきありがとうございます。
2011年12月、第1回目のTokyo Docsの pitchingで優秀企画賞をいただき、フランスの制作会社・放送局が興味を示したところから、このプロジェクトは本格的に立ち上がりました。40頁におよぶ企画書の初稿を私が書け上げたのが翌年3月。仏語に訳し、フランスの制作会社ボワン・ド・ジュールのプロデューサー、Luc氏とディスカッションを始めました。といっても、私とLucとのコミュニケーションは、メールのやりとりが中心。私は英



語は苦手でしたが、翻訳を頼む予算がなかったので——正確には、企画が不成立に終わった場合のリスクを考えると外に払えるお金に限りがあった——企画書初稿だけを翻訳に出してからは、ヤフー翻訳・Google翻訳を駆使して議論を続けました。最初は簡単な用件を英語で書くのに2時間以上かかっていましたが、次第に慣れ、「文法が間違っているでも通じれば良い」と腹が据わりました。Lucと交わしたメールは千通以上におよびます。フランスの放送局、アルテがこの企画を正式採用してくれたのは2012年9月のことでした。

日本文化を扱ったドキュメンタリーで、西欧との本格的な共同制作はおそらく初めてだと思います。スタッフ一同つねに迷いながらも、プロジェクトを遂行できたのは、NHKの伊藤純・牧野望プロデューサーを始め、国際共同制作班および編成局・関連事業部など多くの皆さまのご理解と支えがあったからでした。

NHKには更に感謝していることがあります。プロダクション・エイシアはわずか3人の小さなプロダクションですが、NHKは弊社を対等なパートナーとして共同制作の立場にあることを認めてくださったことです。

最後に、Tokyo Docsを支えている実行委員の皆さま——みなボランティアで尽力してくださっている——に深く御礼申し上げます。

プロデューサー兼ディレクター 柴田 昌平
(プロダクション・エイシア)



総務大臣賞審査講評



第31回ATP賞総務大臣賞
審査委員長
天城 鞆彦
(Tokyo Docs 実行委員会委員長)

今年度の「ATP賞 テレビグランプリ 総務大臣賞」は「海外での評価に十分に耐えうる優れた作品」という賞の趣旨に相応しいものとして、ドラマ、ドキュメンタリー、情報・バラエティの各部門から推薦された5本の番組について5人の審査委員により審査しました。

まず、各審査委員から「海外での評価に十分に耐えうる」とはどういうことかについて考え方の表明がありました。優れた作品性があること、メッセージ性があり感動を与えられること、広く受け入れられる普遍性、大衆性があること、共感性が高いこと、女性、動物、子どもに対する配慮があること、ローカライズしてもメッセージが伝わること、海外視聴者の視点で評価できることなど、様々な考え方が示されました。そのうえで最高評価を5点最低評価を1点として投票を行い、さらに審査委員による討議を行いました。

討議の中では、「スケート靴の約束」はフィギュアスケートの技術をもつ出演者による温かいストーリーは評価できるがドラマとしての深みに欠けるのではないかという意見が表明されました。「芙蓉の人」は日本の夫婦の愛の力を伝える力作として評価する声がある一方で明治の女の強さを海外に十分に訴えるには至らないという指摘がありました。「是枝監督×女子高生～震災3年 福島を描く～」は優れたドキュメンタリーとして高く評価する声があるものの女子高生

を通して福島の現実を描くという手法が海外の視聴者には分かりにくいのではないかというコメントがありました。

最終的には、NHKスペシャル「和食～千年の味のミステリー～」と「和風総本家～世界で見つけたMade in Japan～第12弾」が激しく競い合うこととなりました。

「和食」は国際共同制作のためのイベント、東京TVフォーラム(現在の名称はTokyo Docs)で提案された「Dashi」という企画にフランスの制作会社がパートナーとして名乗り出て、日本とフランスの放送局が参加する本格的な国際共同制作となり、日本、フランス、ドイツで放送されただけでなく、イタリアをはじめとする多くの国でも放送されることになりました。和食の味の秘密を麹菌アスペルギルス・オリゼを手掛かりに解明し、解明のプロセスを考え抜かれた美しい映像で描くという完成度の高い番組でした。

一方、「和風総本家」はメイドインジャパンを支える職人の熟練の技と、それによって作られた道具を使う海外の職人との交流を描く温かさに満ちた番組で、これこそ海外の人たちに見て欲しいと日本人の誰もが思うような見事なエンターテインメント番組でした。

審査委員会での議論の結果、「和食」は娯楽性には欠けるものの国際共同制作という手法によって多くの国で放送されているという実績があるのに比べて、「和風総本家」を海外の視聴者が見たいと思う番組とするためには国内放送版とは別の版を制作するフォーマット販売の手法をとる必要があるという意見が出たことなどから、最終的に「和食」に総務大臣賞が授与されることとなりました。

国際共同制作とフォーマット販売という国際展開の2本柱ともいうべき手法をめぐる審査委員会の議論は、今後にも多くの示唆を与えるものとなりました。

第31回 ATP賞 2014

一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟

発行／(一社)ATP 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 あまかすビル6F TEL.03(6205)7858 FAX.03(6205)7859

創り手が選ぶ、創り手のための賞「第31回ATP賞テレビグランプリ」の受賞式典が11月27日(木)六本木ハリウッドホールにて開催されました。式典冒頭、安藤友裕 総務省情報流通行政局長、荻井勝人 日本放送協会会長、井上弘 日本民間放送連盟会長、重延浩 JAPAN国際コンテンツフェスティバル実行副委員長のご祝辞に続き、倉内均ATP理事長の開会宣言にて開会となりました。栄えあるグランプリは、ATP会員社、審査委員による投票の結果、互いに38票を獲得したドキュメンタリー部門BS1スペシャル『憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後』、情報・バラエティ部門『和風総本家』世界で見つけたMade in Japan 第12弾の史上初の同時受賞となりました。ご列席頂きました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



西山喜久恵(フジテレビ) アナウンサー
中川 緑(NHK) アナウンサー

同得票同時受賞!

グランプリ

『憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後』
『和風総本家』世界で見つけたMade in Japan 第12弾



『憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後』
NHKエデュケーショナル、椿プロ／NHK BS1

●出演者

ファン・ホセ・ロチャ、アントニオ・エルピディオ・キリノ・Jr.、アレリ・アンジェラ・キリノ、ルビー・キリノ、ルーデス・ビネダ、宮本正二、藤井六治郎、ロバート・バーバー他

●語り

萩原 聖人

●スタッフ

制作統括：角野 史比古(NHKエデュケーショナル)
下田 大樹(NHK) 栗原 真紀(椿プロ)

ディレクター：金本 麻理子(椿プロ)

取材：橋 理恵(椿プロ) 川口 穂菜美(椿プロ)

『和風総本家』世界で見つけたMade in Japan 第12弾
仁プロデュース／テレビ大阪

●出演者

萬田 久子、東 貴博、梅宮 辰夫、
八嶋 智人、マギー

●ナレーター

麻生 美代子

●スタッフ

プロデューサー：庄田 真人(テレビ大阪)

演出：内山 慶祐

作家：伊藤 正宏(イートン・ドットコム)

ディレクター：石井 辰之介

豊川 康成



グランプリ／最優秀賞

ドキュメンタリー部門

『憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後』



この度は、大変栄誉あるグランプリを頂き有難うございます。8年前「マニラ市街戦」にて、日本とアメリカの戦争に巻き込まれ10万もの市民が犠牲となったフィリピンの人々取材しました。番組のラストで父と兄を日本軍に殺された女性が「もうこれで話すのは終わり forgive forget」と語りました。私の中でその言葉はずっと強く重く心に残っていました。今回もう一度フィリピンの方々の声を聞き、彼らの戦後を知ることで、その言葉の重さを、そこに至るまでの苦悩を、その意味

を深く感じることができ、本当にディレクター冥利にすぎる機会でした。このテーマを番組にしたいと企画され情熱を注がれた角野CP、“憎しみの連鎖を断ち切らねば前に進めない”という今日的なメッセージを大切にしようと熱い試写で導いてくださった下田CP、取材しまくり“カオス”に入ってしまう私につきあいきれないと思いつつも、共に苦勞してくれたスタッフ栗原、橘、川口、そして多大な協力をしてくださったフィリピンの人々。(伝えきれないこともあります)

今回、スタッフ一同、取材させてくださった方々、皆がこの番組を創る意義を共有できたと感じました。だから尚更、認めて頂けたことが嬉しくディレクターを仕事に選んでよかった！ディレクターを続けてきてよかった！大切なテーマと巡り合えたことに心から感謝しています。これを励みにまだまだまだまだこの仕事を続けていけそうです！

代表取締役 ディレクター 金本 麻理子
(椿プロ)



グランプリ／最優秀賞

情報・バラエティ部門

『和風総本家』 世界で見つけたMade in Japan 第12弾



この度の第31回ATP賞におきまして、「和風総本家」がグランプリ及び情報バラエティ部門最優秀賞という大変すばらしい賞を戴き誠にありがとうございます。改めまして「和風総本家」をご評価いただいた全日本テレビ製作社連盟の関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

最近、テレビ制作スタッフの間でよく囁かれる言葉があります。「今のテレビにはドリームがなくなっている…」と。しかし今回の賞を戴いて、私は「決してそんなこ

とは無いのではないか」と確信しました。

今回「和風総本家」がこの賞を戴けた一つの要因として、制作スタッフの「パッション」が番組から伝わっていたからなのではないかと私は考えます。私自身も今まで数々の番組の制作現場に携わってきましたが、「和風総本家」はテレビ大阪を中心とした番組制作スタッフの結束力が特に強く高い番組だと感じております。また、番組の礎となるリサーチ作業に携わるアシスタントディレクター達の地道な努力も、今回このようなご評価に繋がったのではないかと思います。

これを機会に弊社制作スタッフ一同より一層、テレビを見る人、出る人、作る人に対して思いやりのある番組作りを目指し真摯に取り組んでいきたいと考えております。

今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 佐藤 浩仁
(仁プロデュース)



最優秀賞

ドラマ部門

連続ドラマW『私という運命について』



©wowow テレパック

テレパック／WOWOW
プロデューサー
岡野真紀子 (WOWOW)
黒沢 淳 (テレパック)
監督
瀧本 智行
原作
白石 一文
脚本
岡田 恵和

極寒の長岡ロケから、灼熱のマレーシアロケ(その気温差45°!)という強行軍をものともせず、瀧本監督の陣頭指揮のもと、素晴らしいお芝居や映像・音楽などを創りだして下さった、すべてのスタッフ・キャストの皆さんに敬意を表します。監督が発想した16ミリフィルムによる撮影も「人間の記憶は、デジタルではなく、フィルムの質感なのだ」という説に説得力を与えました。皆が一丸となれた道標は、白石一文さんの感動的な原作と、岡田恵和さんによる素晴らしい脚本。よく「台本は



バイブル」と言いますが、岡田さんの脚本はまさに“バイブル”でした。そして、永作さん、宮本さん、江口さん等々俳優陣の、お芝居に対する真摯な姿勢も、凛々しいものでした。宮本さんは、イン前に長岡に先発し、ロケ地の酒蔵で酒造りを実践しながら長岡の空気や言葉を体得されました。皆の思いがこういう形で皆様に伝わったことを、心から幸せに思っております。

プロデューサー 黒沢 淳(テレパック)

審査委員長挨拶



第31回ATP賞
審査委員長
中山 和記
(バンエイト)

146本の受賞対象、ドキュメンタリー、情報・バラエティ、ドラマの総合審査に加わりましたが、それぞれの部門における優秀な番組が多く、議論を多としました。しかし、あくまで今回の評価ベースは、「いかに制作会社が企画および制作現場に関わりあえたか」を審議することに致しました。

昨今、コンテンツ・ライツやフォーマット・ライツが二次的権益を生み出す時代において、ATP各社がどれだけコンテンツの確保に動けるのか、コンペッションに参加し得るかが今後の命題でもあります。

そうした意味では、ステーションのリードが強い番組また作品といえども、その制作現場を支えた優秀なスタッフの顕彰という観点も含まれています。そうした指摘以外は、全て公正に審査されたことを報告申し上げます。

審査委員長としましては、ATP賞受賞作品が、今後の放送文化を発展させ、日本の輸出コンテンツを促進させることに寄与できますことを願い、今年度の審査を終了させていただきます。有難う御座いました。

最優秀賞審査講評

【受賞作品の記載順番は、各部門別の応募受付(エントリー)順】

【ドラマ部門】

◆連続ドラマW「私という運命について」

バブル崩壊後、9.11テロ、地下鉄サリン事件、新潟県中越地震など様々な出来事の中を生き抜く、女性総合戦第1号の主人公の半生を、純愛物語として描いた「激動の中の女の選択を、見詰め続けたドラマ」。「選べなかった未来な

どない。運命は自らの手で切り開くのだ」というメッセージも力強く伝わる。16mm撮影による、新潟・長岡の美しい雪景色やマレーシアの熱帯色を背景に、永作博美さんや宮本信子さんなど演技陣も好演。感動的な秀作となった。

(河村正一)

【ドキュメンタリー部門】

◆BS1スペシャル「憎しみとゆるし マニラ市街戦 その後」

妻と子供を殺されたキノ大統領が日本人戦犯を恩赦するまでの葛藤を縦軸に、戦後の国際情勢の視点も織り交ぜられた力作だ。日本兵への恨みを抱き続けるフィリピン人、戦犯となった日本人や家族、緻密な取材と証言者、資料の発掘、それらが丹念に構成され心が揺さぶられる作品に仕上がっている。時代の記録に留まらず、人として見据えるべきものを問ひかけ、人間の憎しみの根深さと、許すという苦しみに向き合う強さを教えてくれた。

(千野克彦)

【情報・バラエティ部門】

◆「和風総本家」世界で見つけたMade in Japan 第12弾

誰も知らない鋸が、ヴァイオリンの名器ストラディバリウスの修復に使われている。よくぞこのネタを見つけたという感嘆の気持ちと共に、お互いの様子を本人達に見せることで、たった一つの道具を通し「使う人と作る人」の関係を映し出す見せ方に魅了された。テレビ制作者として、丁寧な番組の作り方とお互いに見せるという演出の“発明”に脱帽。

「世界の中のニッポン」という企画自体は数多あるが、その中で断トツに面白い番組。

(千葉龍)

「第31回ATP賞」審査委員

◆審査委員長 中山 和記 (バンエイト)

◇ドラマ部門 岡本 俊次

河村 正一

橋本 芙美 (共同テレビ)

◇ドキュメンタリー部門

田 野 稔 (グループ現代)

千 野 克 彦

富 田 茂 (TBSビジョン)

◇情報・バラエティ部門

川 端 鉄 也 (いまじん)

千 葉 龍

(ジッピー・プロダクション)

福 浦 与 一 (IVSテレビ制作)

●応募総数 146作品

ドラマ部門 (32作品)、ドキュメンタリー部門 (58作品)

情報・バラエティ部門 (42作品)、新人賞 (14作品)

(敬称略、五十音順)

優秀賞

ドラマ部門

金曜プレステージ 終戦記念スペシャルドラマ 『命ある限り戦え、そして生き抜くんだ』

バンエイト／フジテレビ

プロデューサー

中山 和記(バンエイト)
後藤 妙子(バンエイト)

編成企画

細貝 康介(フジテレビ)
水野 綾子(フジテレビ)

演出

福本 義人

脚本

阿相クミコ



©フジテレビ



ドラマ部門

土曜ドラマ『芙蓉の人～富士山頂の妻』 第三回 天空の笑顔

NHKエンタープライズ／NHK総合

制作統括

小松 昌代(NHK)
内田 ゆき(NHKエンタープライズ)

演出

土井 祥平(NHKエンタープライズ)

原作

新田 次郎

脚本

金子ありさ(ハーフノート)



優秀賞

ドキュメンタリー部門

ノンフィクションW『萩本欽一 73歳覚悟の舞台へ』
～THE LAST ほめんな ほれんな とめんな 完全密着～

テレビ朝日映像／WOWOW

プロデューサー

戸塚 英樹 (WOWOW)
阪本 明 (テレビ朝日映像)
阿部 聡 (テレビ朝日映像)

ディレクター

三ツ木仁美 (テレビ朝日映像)

構成作家

武田 浩 (ツインズ)



ドキュメンタリー部門

BS1スペシャル『女たちのシベリア抑留』

テムジン、NHKエンタープライズ／
NHK BS1

プロデューサー

太田 宏一 (NHK)
伊藤 純 (NHKエンタープライズ)
矢島 良彰 (テムジン)

企画・ディレクター

小柳ちひろ (テムジン)



情報・バラエティ部門

ぐるぐるナインティナイン『グルメチキンレース ゴチになります!15』
ぐるナイ新メンバーお披露目で緊急Wゴチお年玉で運だめし新年おめでと5時間SP

シオン、日テレアックスオン、ザイオン、
ビアーズ／日本テレビ

総合演出

伊藤 慎一 (シオン)
宮下 仁志 (日本テレビ)
チーフプロデューサー
松崎 聡男 (日本テレビ)
プロデューサー
吉無田剛 (日本テレビ)
榎元美由紀 (日テレアックスオン)
石原由季子 (ザイオン)
高橋 正子 (シオン)

ディレクター

長島一泰、津留正宏、菊池洋輔
(日テレアックスオン)
山下浩一 (ビアーズ)



©日本テレビ



情報・バラエティ部門

『哲子の部屋』

NHKエデュケーショナル／
NHK Eテレ

ディレクター

佐々木健一 (NHKエデュケーショナル)

制作統括

田畑 壮一 (NHKエデュケーショナル)
丸山 俊一 (NHK)



奨励賞

ドラマ部門

『ヨーロッパ企画の26世紀フォックス』

共同テレビ／フジテレビ

演出

吉村 慶介 (共同テレビ)

プロデューサー

勝田久美子 (共同テレビ)
吉田 和睦 (ヨーロッパ企画)

脚本

上田 誠 (ヨーロッパ企画)

構成

河野 有



©フジテレビ



ドラマ部門

金曜8時のドラマ『三匹のおっさん ～正義の味方、見参!!～』

ホリプロ／テレビ東京

チーフプロデューサー

岡部 伸二 (テレビ東京)

プロデューサー

山鹿 達也、阿部 真士 (テレビ東京)
井上 竜太、梶野 祐司 (ホリプロ)

監督

猪原 達三
白川 士 (ザ・ワークス)

原作

脚本
有川 浩 佐藤久美子



ドラマ部門

テレビ愛知開局30周年記念ドラマ『スケート靴の約束』
～名古屋女子フィギュア物語～

テレパック、電通／テレビ愛知

プロデューサー

白川 靖男 (テレビ愛知)
蔵本 憲昭 (電通)
沼田 通嗣 (テレパック)
東田 陽介 (テレパック)

脚本

鎌田 敏夫

演出

麻生 学



©テレビ愛知・電通・テレパック



ドキュメンタリー部門

にっぽんリアル『38歳 自立とは?』

NHKエンタープライズ、
スローハンド／NHK BSプレミアム

ディレクター

佐藤 寛朗 (スローハンド)

制作統括

佐藤理恵子 (スローハンド)
井手 真也 (NHKエンタープライズ)
松居 径 (NHK)



奨励賞

ドキュメンタリー部門

明日へ—支えあおう—『是枝監督×女子高生』
～震災3年 福島を描く～

パオネットワーク、
NHKエデュケーショナル／
NHK総合

プロデューサー
山根幸太郎(パオネットワーク)

ディレクター
四宮 秀二(パオネットワーク)

制作統括
若井俊一郎(NHKエデュケーショナル)
奥本 千絵(NHK)



©NHK

ドキュメンタリー部門

NHKスペシャル『和食』
千年の味のミステリー

プロダクション・エイシア、ボンド・ジュール
／NHK総合、アルテ・フランス

プロデューサー
伊藤 純(NHKエンタープライズ)

ディレクター
柴田 昌平(プロダクション・エイシア)

制作統括
牧野 望(NHK)
大兼久由美(プロダクション・エイシア)



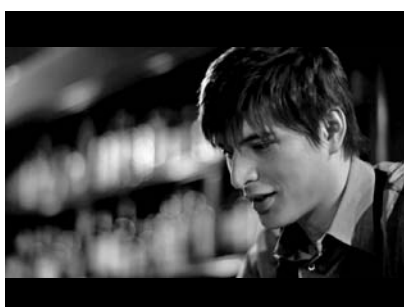
©NHK、プロダクション・エイシア

情報・バラエティ部門

大人番組リーグ2『真実の一枚』

日テレアックスオン／WOWOW

企画・演出
小俣 猛(日テレアックスオン)



©WOWOW

情報・バラエティ部門

『おぎやはぎの愛車遍歴』放送100回記念スペシャル
石橋貴明編

東阪企画／BS日テレ

チーフプロデューサー
玉井 浩(BS日テレ)

プロデューサー
坂本 水奈(東阪企画)
佐藤 明香(BS日テレ)

ディレクター
野原 卓司(東阪企画)

企画・総合演出
山本 浩史(東阪企画)



©BS日テレ



新人賞



栗石 瑞穂
テレパック
ディレクター
2013年入社

受賞作：青山ワンセグ開発「すもうねこ」

この度はこのような素晴らしい賞を頂き、本当に本当に嬉しいです。ありがとうございます。今、沢山の方への感謝で一杯です。まず、監督させて頂いた「すもうねこ」を応援して下さいました皆様。そして、入社2年目でまだまだ未熟な私に監督という大役を任せてくださった先輩方に。そして、高校生の頃から実現の青写真もないのに「ドラマを作る!」と言っていた無鉄砲な私を応援してくれた家族に。私は未だ賞を頂くに相応しい経験・実力を兼ね備えておりません。もっともっと精進し、5年後・10年後に恩返しができるよう、頑張ります!!



©テレパック



西崎 真奈
いまじん
ディレクター
2007年入社

受賞作：ザ!世界仰天ニュース「世界一寒い村へGO!」

マイナス71、2度という世界一の寒さを体感してこいと送り出された、ロシア・オイミヤコン村での取材。想像もつかない気温です。しかし、なぜかその年、村に寒さは訪れませんでした…。村人は口々に言いました。春が来たみたいだ。その気温マイナス50度。もちろん、充分寒いのですが、このままでは帰れません。怒られます。慌ててプロデューサーに状況を報告したのを覚えています。

なかなか行く事のできない場所に行かせてもらったことをとても有り難く思います。VTRに携わってくださった全ての方々に感謝致します。



©NTV



八田 直記
テレコムスタッフ
ディレクター
2009年入社

受賞作：アタラシキズナ「ギークたちがひとつ屋根の下に住んでみた」

およそ1か月半、自分も住人となってシェアハウスに住み込み、会社にも行かず、ひたすらカメラを回し続けました。普通だったらこんな取材体制はあり得ません。

こんな番組作りをするチャンスを与えてくれた自分の会社に感謝するとともに、こういった賞を頂けたことで少しは恩返しできたかなと思っています。そして何よりも、自分たちの生活風景という一番プライベートな瞬間を覗かせてくれたギークハウスの住人のみなさんに感謝です。

これからはこの賞の名に恥じないよう、ディレクターとして前進していきたいと思っています。



新人賞審査講評

栗石 瑞穂(テレパック)

ねこが相撲部屋に弟子入り、様々なネコ技を編み出し成長していく物語。

とにかく面白かった。“すもう”と“ねこ”という妙な組合せのタイトルから、内容が想像できなかったが、全3話、ユーモアとほっこりエピソードがほどよく盛り込まれ、5分とは思えないドラマに仕上がっている。主人公の“着ぐるみねこ”を取り巻く配役もそれぞれはまっていた。制約がある中で、この完成度にまで仕上げた監督の知恵と努力に拍手。次回作に期待したい。(松本裕子)

西崎 真奈(いまじん)

「世界の果て」感と「寒さ」がひしひしと伝わって来た。決して「行きたい!」とは思わないけど「見ている分には楽しい!」という気持ちにさせられた。また登場するディレクターとADがどこにでもいる感じの女性(良い意味で)だったので、自分に置き換えて感情移入して見る事ができた。

普段は絶対に行かないような場所へ行っただけでもディレクターとしての強みになると思います。(大塚真史)

八田 直記(テレコムスタッフ)

「今」っばい。「ギーク」というキャッチーな言葉、そして「シェアハウス」。

そして「謎」だらけ。

見ず知らずの男たちと一緒に住ませようとする管理人。理由を聞けば少しは納得できるけど、その行動は「謎」だった。シェアハウスへ入居してくる男たちも「謎」だらけ。仕事をしていたら何かにしている、意外に可愛い彼女がいる、など。

シェアハウスの内部が別世界に見えて、常にドキドキ感と謎めいた雰囲気を感じました。(大塚真史)

「第31回ATP賞」新人賞 審査委員

◇大塚 真史(IVSテレビ制作)

◇松本 裕子(パオネットワーク)

(五十音順、敬称略)

特別賞

“開運!なんでも鑑定団”制作チーム

20年の歳月の中で色々なことが思い出されますが、始めた頃は骨董品や美術品の鑑定だけで番組が持つのが心配でした。しかし、始めて見ると鑑定できるジャンルが思いのほか多いのに驚かされました。その「知識の広がる面白さ」が20年間続いた根源だと思います。また、金銭にかかわることでトラブルが尽きませんでしたが、どんな時でも「この番組を守ろう」という決意の代々のテレビ東京の方々のご尽力も、ここまで続いた原動力だと思い深く感謝いたします。

ネクサス プロデューサー 杉山 麗美



©テレビ東京



ファルージャ 〜イラク戦争日本人質事件…そして〜

映画「ファルージャ」に対する今回の賞はまさに「特別」に嬉しい賞です。ATPが第1回若手映画プロジェクトの企画を募集したのはATP加盟各社に共通する二つの課題、「若手スタッフの熱意と才能に賭ける」と「テレビでは出来ないテーマや内容へのチャレンジ」だったと思うからです。そして、第2回作品「ミタケオヤシン」の上映成功と、次の募集に多くの会員社と若手スタッフから手が挙がることを心から願っています。

ホームルーム プロデューサー 広瀬 凉二



©ホームルーム



“THE世界遺産4K”制作チーム

TBS「世界遺産」は1996年のスタート当初より、最新の映像技術で「映像遺産」として記録し、未来に遺していくことを大切なコンセプトとしてきました。

昨年6月にスタートした「THE世界遺産4K」は、国内初の4Kレギュラー番組として、純粋に映像の力で世界遺産の魅力を表現することにこだわって番組づくりを進めてきました。今回、こうした取組みを評価いただき、ATP特別賞をいただいた事を大変感謝しております。番組関係者・スタッフと共に、この喜びをわかち合いたいと思います。

TBSビジョン メディア事業本部プロデューサー 小川 直彦



©TBS、BS-TBS



観光庁長官賞

一志相伝 スペシャル『天空の城を修復せよ!』

〜300年続く石工親子の挑戦〜



©ABC

エー・ビー・シー リブラ／
朝日放送
プロデューサー
熊田 容子(朝日放送)
竹島 和彦
(エー・ビー・シー リブラ)
ディレクター
渡辺 晃司
(エー・ビー・シー リブラ)
構成
土屋 幸喜

この番組は普段、職人親子を取り上げる週一回、5分のレギュラー番組です。今回のSPは竹田城の修復をする職人親子の取材で、予算など少ない中、ENGが2回だけになり、ディレクターの映像が多く、不十分な点も多かったと思います。しかし、素晴らしい石垣職人さんのおかげで、賞まで頂けました。今回、日本の職人の「モノづくり」の精神を学び、我々も職



人さんに負けない自負を持って番組を作ろうと決意を新たにしました。

プロデューサー 竹島 和彦(エー・ビー・シーリブラ)

観光庁長官賞審査講評

観光庁長官賞は「第31回ATP賞」審査委員によって選考されました。

◆一志相伝スペシャル「天空の城を修復せよ!」

〜300年続く石工親子の挑戦〜

“穴太衆”という、テレビ番組として描くにはとても難しい職業を、取材対象者の親子を通じ見事に取材、構成、編集されていました。

特に編集においては、技術的な説明が最小限で親子に感情移入しやすく、石垣に関する知識が全くなくても引き込まれるように鑑賞できました。

特に編集の無駄のなさ、テンポの良さが際立っていたように思います。(川端鉄也)

